

## 「木になるフェスティバル」を終えて

企業支援部 普及連携グループ 大西人史

林産試験場では、（一社）北海道林産技術普及協会と共催で、林産試験場を一般の方へ広く公開し、木を使った様々な科学実験や工作の体験、場内見学などにより、道民や子供達への科学技術に対する理解の増進を図るためのイベント「第28回 木になるフェスティバル」を7月20日（土）に開催しました。

当日は天候にも恵まれ、多くの子供達や保護者で賑わい、ほぼ例年並みの690名の来場者がありました。

開会式では、八坂場長の挨拶後に主催者と来場者の中から代表に選ばれた子供達による道産カラマツ高強度集成材カットが行われました（写真1）。

これは、林産試験場が開発した木質材料を紹介する趣向で行っているもので、昨年は道産CLTをカットしました。今年は成熟期を迎えた道内のカラマツを建築材料として利用するための研究成果として、カラマツ大径材から高強度部位を選択して積層した高強度集成材を紹介し、試験体をカットしました。

催事は、林産試験場から13件、一般社団法人北海道林産技術普及協会から1件の合計14件と物販が3件でした（写真2）。また、会場敷地内に2020年4月に開校する「北海道立北の森づくり専門学院」の紹介と上川農業試験場、北方総合建築研究所の公開デーの案内を掲示するコーナーを設けました。

催事の概要は次のとおりです。

- ・りんさんツアー（企業支援部）

普段見ることのできない林産試験場の試験設備などを見学するツアー

- ・クイズラリー（企業支援部）

各催事場に設置されたクイズポスターを巡り、全問正解したら記念品がもらえるラリー（先着300名）

- ・バードコールをつくろう（性能部）

木っ端とボルトを組み合わせて、鳥の鳴き声のような音を出すバードコールをつくる

- ・食味試験にトライ！（利用部）

林産試験場が品種開発したきのこ、シラカンバ材から作った粗飼料を食べて育った牛肉の食味試験（写真3）

- ・木の香りわかるかな？（利用部）

様々な樹木の香りを嗅いで、樹木の種類を当て



写真1 開会式のカラマツ高強度集成材カット



写真2 催事会場の様子



写真3 催事「食味試験にトライ！」

てもらうクイズ

- 炭ってどんな性質持っているの？（利用部）  
木炭で電池を作ったり、水をきれいにする実験  
**(写真4)**
- ゆらゆらモビールをつくろう！（性能部）  
形や重さが違う多様な木質材料について、左右のバランスを取るモビールを作ることを通して、材質や物性の違いを学ぶ
- 木を割って性格占い？（技術部）  
参加者に選んでもらった木片にナタを当てプラハンマーで叩いて割ってもらい、木の割れ方で性格診断と木材の性質を解説
- 木のしおりつくりと削片機械実演（技術部）  
削片加工機（シェービングマシン）で木削片を作る様子を見学と、削片を使った木のしおりづくり **(写真5)**
- 旭川を木のまちにしよう！（技術部）  
木材の端材で作った建物を旭川市の地図に置いて、参加者同士でジオラマを完成させる **(写真6)**
- ヒートペンを体験してみよう！（技術部）  
木の板に電熱ペンで文字や絵を書いて、ネームプレートなどの小物をつくる
- 親子でつくろう！どうぶつ卓上ネームプレート（利用部）  
木の薄い板を動物の形に型抜きし、文字や絵を書いて木の台座付きのネームプレートをつくる。
- 葉っぱのスタンプ（林産技術普及協会）  
木の葉に絵の具を塗ったスタンプを押して、オリジナルのトートバッグをつくる。
- 木工作体験（企業支援部）  
板や釘、カナヅチなどを使ってサイドラックをつくる。

これらの催事以外にも、林産技術普及協会による木のおもちゃ、木っ端、木チップ、飲み物販売と外部業者による軽食などの物販コーナーを設けました。また、物販コーナーのそばには、40名程度を収容できるテントに机・イスと給水所を設置した休憩所を設けて、来場者がゆっくり座って飲食できるスペースも用意しました。

#### ■おわりに

来場者へのアンケートでは、「木はいろいろなものに使われているのだと初めて分かった」、「林産試験場でこんな実験をしているとは知らなかった。勉強になった」などの声を頂き、木材や林産試験場の研究内容に興味を持ってもらうきっかけを提供で

きたと感じています。また、「楽しかったので来年も来たい」、「子供達との貴重な体験の場を作ってもらえた」などの声も多かったことから、次回に向けてさらに充実した体験や学びの場を提供できるよう努めていきたいと思っています。



写真4 催事「炭ってどんな性質持っているの？」



写真5 催事「木のしおり作りと削片機械実演」



写真6 催事「旭川を木のまちにしよう！」